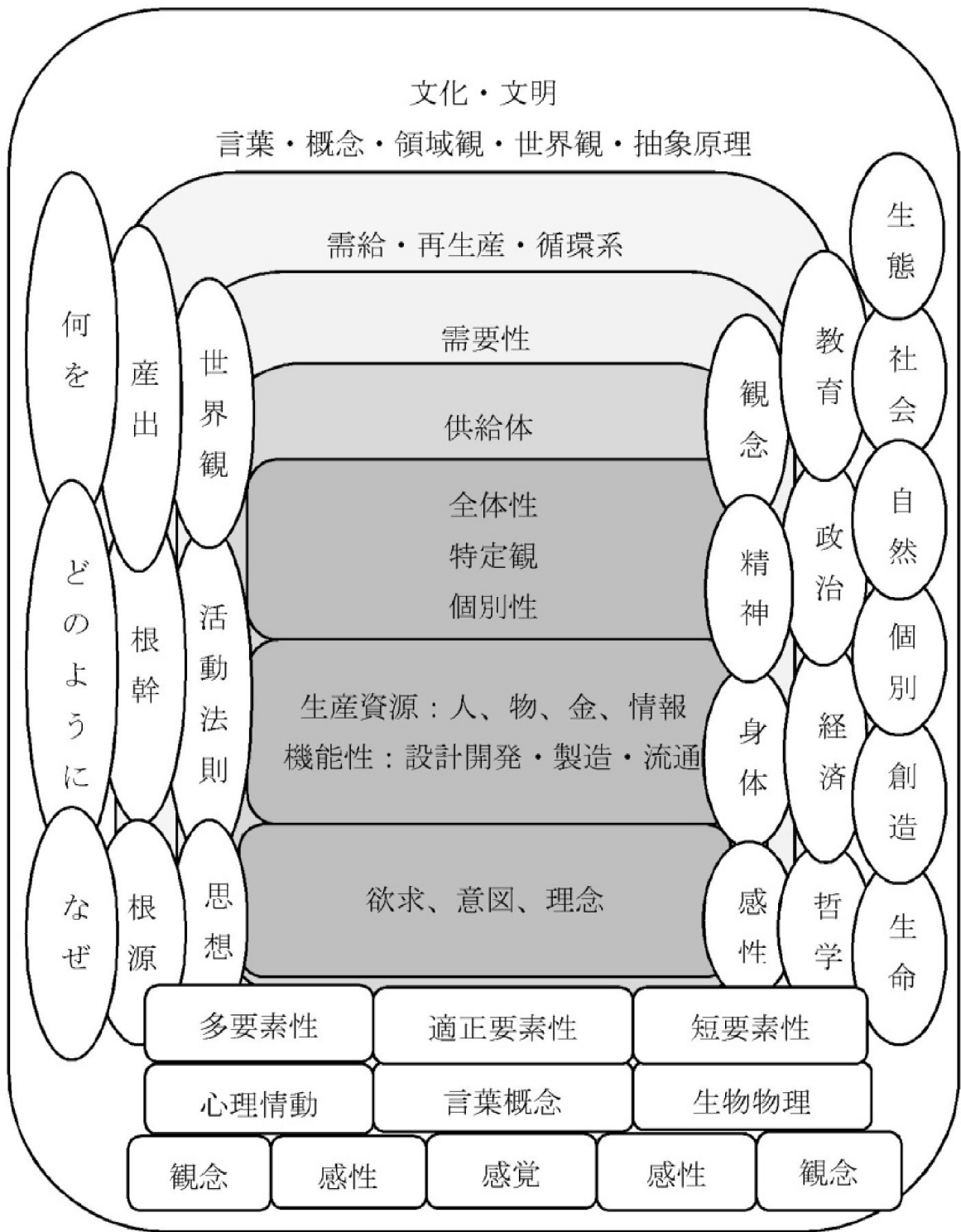


2)領域観の導出と運用

2-1 共通原理性

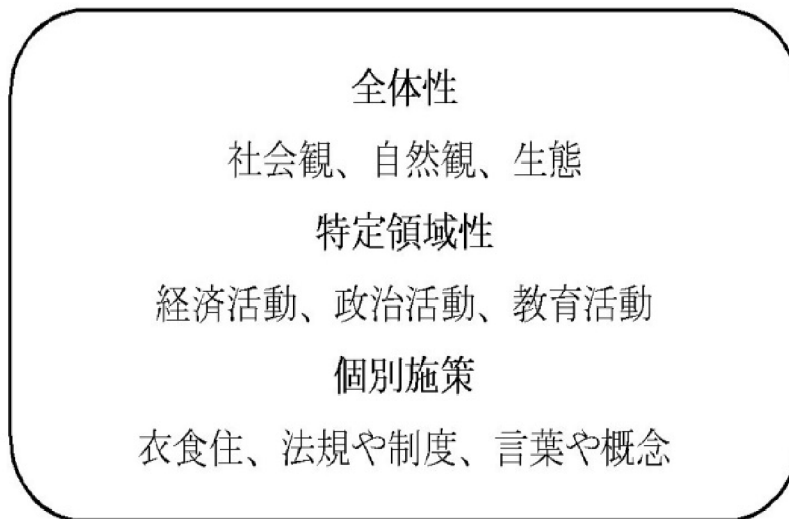
ある共通的な願望や理念から人々が集い一つの領域と組織性が作られる。集団を統合する名称を付し領域観と構成員の関係を生む。意図や欲求という思想性と具体の施策と施策を具象化する人、物、金、情報などという生産資源と設計開発・製造と流通という機能性と技術集約と産出と需要の相関と習慣から供給体と需要の領域性を生む。

2-2 統合集約観



2-3 何を・主題性

何を供給体として完成品という産出性を規定し実現するか。「衣食住、法規や制度、言葉や概念」「経済活動、政治活動、教育活動」「社会観、自然観」「生態観」などという主要な産出事物が想定される。



こうした根本且つ大局性の概念集約を前提的な基準に整え、個別特定現象の形成と制御に回る具体の観点が以下のように現れる。

2-4 根本概念と具象性

2-4-1 領域の歪性

組織を統合する名称や概念と、組織の実際や実態がかけ離れたような現象が発生する。組織の営業マンが外部に案内する商品や製品の内容に対し実際に供給できる物事との乖離を広げ、外部に歪な現象を生じさせる。組織の活動と産出性へついて適正な現況認識が足らず、実現可能な産出と異なる結果という検証に及び、内部と外部の不調和性を作る。営業や流通工程と製造工程との分断的な性格が表面化する。組織を統合する概念と実際のかげ離れ、感性和観念と精神と身体因果と習慣に歪性を持つ領域の不健全という質実が現れる。

2-4-2 浄化作用

外部領域へ負の感覚と感性を作り、外部領域は他の良好な対象を選択する事に及び、歪な領域の縮小と良好な領域の増進をもって、健全な領域性を存続する自然律が働く。この自然な働きを停滞させる状態が続き、根の深い病理性を作るようであると、特定領域の歪性に留まらず、空間全域へと負の性格が直接間接に広がり、健全な人間と生態からかけ離れた性質を広げる。

2-4-3 根本的な欠陥

言行の不整合という領域の根幹的な不良を作り、歪性の是正へ力が働かず、病んだ内部性のままで、外界に負を押し付け存続できるような状況は、歪な需給構造になり負の性質を深め広げる。歪な現象を歪な発想と手法をもって、隠蔽や誤魔化しを起こし、内実とは異なる実態を放置する逃げの発想と歪な利己性を求める感性の病んだ自存性の偏りと、他存性の減少という感性や生命観の狂った生存と成長を望む病理性が現れる。他の良質を選択できる状態にあって負を是正する因果に回る。領域を主導する立場において、強権的な統治を図り、外部への歪性を隠し装飾性が過ぎるような態度を慢性化し、内面と外形のかげ離れた病理性という質実が表面化する。「領域の主導性に欠陥がある」という評価と判定に至る。或いは力を有する一部の外部性からの良い評判を作る事に偏って、力の弱い立場を軽視し負を押し付けるといふ程度の強まる歪性を生じさせる。

2-4-4 根源性の病み

物質的な力の依存性を強め、格差構造を拡大させ、短要素画一性の強まる需給性と生物体系が進行する。相対的な内外との対面と物理強弱の因果性に支配された効用感の高まりに対して、根本的な観点から普遍的不変性の基準性を求め、あまりに偏りの激しい物理合理性に陥らぬ公性への関心と形成の軌道に回り、籐のかからぬ暴力性や詐欺性を予防し、健全な心理情動性と生物物理性を表す概念を起し稼働させる長期周期性に進む。

2-4-5 普遍的な不変性

普遍不変性などという関心を喪失すると、相対的な内外との相関と物理因果の強弱に偏った効用感と利益追求の創造基調が拡大する。生命や人間としての適正観などという事へ関心が及ばず、短期的な因果と利益追求の強まる発想と体質が強められる。詐欺や暴力性という慢性的な非社会性や非人間性という性格が進む。

2-4-6 根本概念の導出と提起

「反社会的な勢力」などという基礎的な言葉の意味内容についてどのような見解を持つのか。大きな権限や責務を有する配置性を望むほどに確固とした見解が必要に狭まれる。「定義できない」などという態度であると根本的な欠陥と解される。力を暴走に用いる原因が浮かび上がる。権限と責務の不均衡を広げる。過剰な欲求と責務の不足する不均衡の持続や拡大について確たる根本概念が望まれる。言葉や概念に集約できない状態は歪な運用に外れ力と運用の病理を広げる。長期原理を著しく破壊する性質を放置すると病理に籐がかからず、破壊の軌道を推し進める。

2-4-7 公明正大

誰にも、納得感や共感性の高まる根本概念の導出を図り、現象の観測と評価性に反映し、具体の施策に連なる基準と稼働の習慣へ向かう。変わりづらい確かな視座となる概念を善男性に引き出し、個別特定現象の観測と評価や分析と判定が進む。健全な感性から堂々とした発想と作為の習慣を常態する公明正大な性質を柱に備え、歪性の増す生命と創造と人間に陥らぬ健全と永続の軌道が推進される。

馬鹿が、未だに、こそこそこそこそ、サイバー犯罪で論文を盗み出す。この手の肥満症は淡々と取り締まらぬと、日本的な性質を破壊する。日本文化とは異質の性格と判断する。